全国の火山活動状況（1980年4月～6月）

気象庁地震課火山室

気象庁が常時火山観測を実施している精密観測4火山については，昭和55年4月以降6月末までの活動状況を，普通観測13火山とその他の火山については，報告をうけたものについて状況を要約した。火山情報発表状況を第1表に，全国火山活動状況を第2表に示す。

第1表　火山情報発表状況（昭和55年4月～6月）

火山名 ＼ 情報	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	有珠山	北海道駒ケ岳	吾妻山	安達太良山	磐梯山	那須岳	草津白根山	御岳山	三宅島	雲仙岳	霧島山
定期	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1	1
臨時	3														1			

注）　前号（昭和55年1月～3月）に雌阿寒岳，定期，1追加

第2表　全国火山活動概況（昭和55年4月～6月）

火山名 ＼ 月	4	5	6
桜島	▲	▲	▲
有珠山	△	△	△
御岳山	△	△	△
諏訪之瀬島	▲	▲	▲
福徳岡の場	△	△	△
福神海山		△	

▲ 噴火　　△ 異常

桜　　島

爆発回数，噴煙回数，地震回数の月ごとの推移は第３表のとおり。３月末から６月７日まで火山活動が活発で，５月の爆発回数は，６９回に達し，昭和３０年以降では月間爆発回数順位の第３位であった。また爆発地震は小さいが，空振や爆発音が大きい爆発が目立った。

第３表　桜島火山観測資料

月	1980／4	5	6
爆発回数	48	69	12
噴煙回数	95	122	20
地震回数	4,872	5,926	3,958

主な活動

・４月１８日１４時０７分の爆発は気象台火山観測室のドアが開くほどの大きな空振を伴い，多量の噴石を３合目付近まで飛ばし，一部で山火事が発生した。

・４月中旬以降は鹿児島市にもたびたび降灰があり，市電軌道へ火山灰が推積し，５月２日には電車が脱線した。

・５月８日の爆発による火山灰が小雨で碍子にくっつき，鹿児島市の吉野台地から，上町一帯にかけて，3,700戸が停電し，交通信号も０７時すぎから約１時間半ストップした。

・５月１２日には強い雨で黒神河原と持木町の持木川で土石流が発生し，持木川のガードレールやブロックが破損した。

・６月６日０８時３０分の爆発は大きな爆発音と空振を伴い，多量の噴石を６合目付近まで飛ばし，ドロドロという大きな鳴動が気象台でも聞こえた。

阿 蘇 山

中岳第１火口は引き続き全面湯だまりとなったままで，湯量の増減もほとんどなく，所々で噴湯現象が観測される程度で，表面活動，地下活動とも特に変化はなかった。

地震回数等の月別推移は第４表のとおりで，孤立型微動や連続微動は著しく減退しているが，大雨に伴い短周期微動が，６月１４日（３回），１９日（６回），２０～２１日（２５回）に観測された。

第４表　阿蘇山火山観測資料

月	1980／4	5	6
地　震　回　数	34	33	30
孤立型微動回数（0.5μ以上）	5	3	6
連続微動平均振幅（μ）	0.0～0.1	0.0	0.0～0.1

昭和５４年６月１１日から実施されていた阿蘇山中岳第１火口周辺の立入規制が，５５年６月１３日１３時３０分，阿蘇火山防災会議協議会により解除された。ただし第１火口周辺だけは常時規制されている。

浅 間 山

遠望観測によれば，噴煙は中量の日もあったが，大部分少量以下で，色は白色，高さも３００ｍが最高であった。

火山性地震回数は６月やや増加した（第５表）。

第５表　浅間山地震回数

観測点＼月	1980/4	5	6
A	12	22	44
B	58	127	403
C	53	107	317

伊豆大島

４月２３日，５月２１，２２，２８日に小さな火山性微動が記録されたが，現地観測結果等特に変りはなかった。

６月２４日ごろから伊豆半島東方沖で地震が群発し始めたが，この活動は２９日ごろピークに，消長はありながら次第に弱まっている。また２９日から７月初めにかけては，大島付近で起こったと推定される地震も多数記録された。これらの地震は伊豆大島の火山活動とは直接の関係はないと判断された。

雌阿寒岳（釧路地方気象台　６月９日　火山情報）

６月５～６日，雌阿寒岳の現地観測を実施したが，各噴火口及び火口付近の噴気温度，地中温度，火山ガス等の測定値に大きな変化は認められなかった。

ポンマチネシリ第４火口は活発な噴気活動を続けているが，火口付近の噴気温度，地中温度は９５°C前後と変化はなかった。第３火口壁の一部からも弱い噴気がみられた。釧路地方気象台からの遠望観測による噴煙の状況は，平常よりやや多い日もあったが，全般的には変化はなかった。

火山性地震回数の月別推移は１月５２回，２月４４回，３月７８回，４月１３回，５月１０回であった。

なお一般の通行者から雌阿寒岳の噴煙が多いという通報が４月１８日，６月２１日，７月２日にあったが，釧路地方気象台等の調査の結果，別に異常は認められなかった。

十 勝 岳（旭川地方気象台　６月２６日　火山情報）

６月２５，２６日に十勝岳の現地観測を実施したが，前回（１９７９年９月）に比べ各噴火口及び火口付近の噴気温度，地中温度，火山ガス等の測定値に大きな変化は認められなかった。

白金火山観測基地からの遠望によれば，噴煙は平常よりやや多い日もあったが，全般的には変化はなかった。火山性地震回数の月別推移次のとおり。

月	1	2	3	4	5	6
回数	20	12	14	13	16	35

樽 前 山（苫小牧測候所　5月21日　火山情報）

5月19～20日，樽前山の現地観測を実施したが，前回（1979，10，11）と比較して，A火口に新たな噴出物もなく，特に大きな変化は認められなかった。遠望観測でもA火口及び南東亀裂から時々多目の噴気が観測されたが，全体的には変化は認められなかった。

火山性地震もやや減少気味で，月別推移次のとおり。

月	1979／10	11	12	1980／1	2	3	4	5（19日まで）
回数	38	30	58	30	38	18	31	11

有 珠 山（室蘭地方気象台　4月25日　火山情報）

有珠山の地震活動と地殻変動は現在も続いている。

火山性地震は減少しており，3月の地震回数が890回で1977年の噴火以降初めて1,000回を割った（前年3月は，1,969回）。4月に入っても地震回数は減少しており，1日から20日までの回数は472回であった。

なお北大有珠火山観測所の観測によると，有珠山火口原内の新山とオガリ山の隆起と山麓の地殻変動が続いている。

室蘭地方気象台からの遠望観測によると，有珠山は1979年12月6日に噴煙活動が一時活発になり，白色多量の噴煙が観測されたが，その他は異常は認められなかった。昭和新山も噴煙の状況に異常は認められなかった。

有珠山A点における地震回数は第6表のとおり。

第6表　有珠山地震回数（A点）

1980／月		4	5	6
地震回数	月合計	582	673	211
	日平均	19	22	7
有感相当回数	月合計	92	121	32
	日平均	3	4	1

4月22～23日，有珠山，昭和新山，四十三山の現地観測を実施した。

有珠山

銀沼火口とI火口が活発に活動しており，有珠山の噴煙はこの両火口と小有珠南斜面の3か所が主な発生場所である。銀沼火口の北壁には活発に活動している噴気孔があり，激しい噴気音とともに多量の噴煙

を出している。Ｉ火口は活発に活動しており，噴気温度は５６５°Ｃ（前年８月：６３５°Ｃ）で，火口周辺からの噴煙は有色を帯びており，多量の有毒ガスを含んでいると推定される。第１火口とＩ火口の間の断層の落差は更に大きくなっている。外輪西側内壁と北屏風山の地熱地帯の噴気温度は９９°Ｃで，前回に比べて変化なく，周辺の状況にも変化はなかった。昭和新山，四十三山は特に変りはなかった。

北海道駒ケ岳（森測候所　６月２日　火山情報）

５月３０日，北海道駒ケ岳の現地観測を実施したが，特に目立った変化はなく，火山活動は静穏な状態が続いている。１９７９年１０月から１９８０年５月まで噴煙は観測されず，月別火山性地震回数も０～４回の範囲内で推移している。

吾 妻 山（福島地方気象台　６月１２日　火山情報）

６月上旬に吾妻山の現地観測を実施したが，大きな変化は認められず，噴気は少な目であった。

遠望観測でも噴煙量は極めて少なく，火山性地震回数も少なく平常の状態で経過した。

安達太良山（福島地方気象台　６月１２日　火山情報）

５月下旬～６月下旬に安達太良山の現地観測を実施したが，各観測点とも特に変化は認められなかった。火山性地震回数も少なく，平常の状態で経過した。

磐 梯 山（若松測候所　６月２３日　火山情報）

６月１３，１４日，磐梯山の現地観測を実施したが，前回（１９７９年１０月）に比べ，噴気，地熱などの表面現象に特別な変化は認められなかった。

火山性地震の状況には大きな変化はなかったが，３月と４月には微小地震の回数がやや多目であった。

那 須 岳（宇都宮地方気象台　６月５日　火山情報）

５月２８～２９日，那須岳の現地観測を実施したが，特に変化は認められなかった。遠望観測で噴気量は少量から中量で，白色もしくは灰白色，高さは最高４００ｍ，ほとんど２００ｍ程度で，特に変化は認められなかった。

火山性地震回数も少なく（日平均２０回前後），平常な状態が続いている。

草津白根山（前橋地方気象台　６月２６日　火山情報）

６月１７，２０日の両日，草津白根山の現地観測を実施したが，前回（１９７９年１０月）と比べ，特に変化は認められなかった。

火山性地震回数月別推移次のとおり

月	1979／12	1980／1	2	3	4	5
回数	10	12	10	7	10	9

御 岳 山（火山機動観測班　報告）

御岳山の噴煙は多少の消長を繰り返しながら，概して平穏に経過している。九蔵における地震回数は4月183回，5月181回で変化すくない。九蔵での地震観測は6月2日で中止し，機動班の現地派遣は6月7日で中止した。

代って王滝頂上9合目に地震計を置き，電々公社回線で気象庁本庁で記録をとるテレメータ方式の工事をすすめ，6月6日開通し，以後は本庁において火山監視を実施している。新観測点の地震計の倍率は変位型5,000倍で，振切ったときのために500倍のトリガ一式の記録器を併設している。また補助観測点として八海山（5合目）にも地震計を設置し，記録をとっている。

新観測点における地震記録の状況は，6月9日，山頂付近で発生したと思われる火山性地震12回，継続時間10分前後の微動を2回記録したが，その他の日は地震は少ないか，記録されていない。

噴煙遠望観測は機動班現地派遣中止後は，三岳村役場に委託しているが，噴煙少量，高さ50mで変りはない。

6月3日，気象庁機動観測班が活動火口の状況を観測した。第10火口は，第9火口の東部に隣接し，1979年末ごろ，再活動により拡大したことが，航空写真により確認されているが，東西約50m南北約10mで，中心の2か所から勢いよく噴煙をふき上げ，ザー又はゴーという連続音がきかれた。

第9火口は中心部で10数秒間隔で土砂噴出をしており，泥水が湯気を立てながら山腹を流れ落ちている。第9火口の上部内壁面から噴煙が出ているが，第10火口に比べると弱い。

剣ヶ峰の南壁の一部には東西に細長く，一面に硫黄昇化物の付着がみられた。

三 宅 島（三宅島測候所　6月10日　火山情報）

6月5日，雄山の現地観測を実施したが，前回と比較してほとんど変化なく，噴気温度はやや高目，噴気地帯の地中温度は多少の高低はあるが，特に異常はなかった。

火山性地震は3月3回，4月4回，5月5回で，三宅島近海の地震も含まれている。

雲 仙 岳（雲仙台測候所　4月10日　火山情報）

4月5日に実施した雲仙岳の現地観測によれば，温泉温度，地中温度等に目立った変化は認められなかった。A点（矢岳中腹）における月別地震回数は，1979年12月29回，1980年1月70回，2月42回，3月40回で，有感地震はなかった。

霧 島 山（鹿児島地方気象台　5月6日　火山情報）

火山性地震がやや増加することもあったが表面活動に特に異常は認められなかった。

新燃岳南西斜面中腹（火口から1.8Km）に設置された5,000倍の地震計による地震回数は1月109回，2月72回，3月37回，4月24回であった。1月10日には新燃岳付近が震源と思われる微小地震が30回発生した。

4月23～24日実施した現地観測によれば，新燃岳火口内の第6火口は前回（1979年12月13日）より噴気孔が大きくなり，噴気孔縁がタール状になって，時々タール状片を飛散させていた。噴気孔の温度は前回113°Cであったのが176°Cに上昇していた。また第10火口の北側噴気孔群が増大し，

噴気活動がやや活発になっていた。

御鉢火口，新燃岳外壁火口及び山麓の地熱や温泉温度等には特に変化はなかった。

諏訪之瀬島（諏訪之瀬島分校　報告）

１９８０年４月　噴火（２５日，２６日）

５月　噴火（１３日，１８日）

６月　噴火（４日，５日）

海底火山（海上保安庁水路部　報告）

福徳岡の場

変色水視認（１９８０年５月１２日，６月１６日，７月７日，７月８日）

福神海山

変色水視認（１９８０年５月１２日）